



編集・発行/NPO法人一円電車あけのべ
〒667-0436養父市大屋町明延1184
あけのべ自然学校内
TEL079-668-0258/FAX079-668-0099

6136

ロ ク イ チ サ ン ロ ク

2022.6.30

第23号

明
MEI

神
SHIN

プレコン社宅を調査

当法人では、明延鉾山の貴重な産業遺産ともいえるプレコン建築の協和会館、北星社宅を再評価するため、鉄骨構造学と耐震工学の第一人者である関西大学名誉教授の西澤英和先生に依頼し、構造学的な建物調査を行うことにしました。第1回調査が5月3日に実施されました。

東京工業大学名誉教授で建築家の田辺平学氏は、昭和29年発行の著書の中でプレコンについて次のように述べています。「プレコンは都市不燃化の一助にせんがために、第一は従来の木造に代わるべき耐火建築として、第二はわが国の気候風土や日本人の生活様式に



北星プレコン社宅を調査する西澤先生と関係者

もなるべくよく適した耐震・耐火建築として、鉄筋コンクリート構造の普及を目的に(略)私が昭和14年以來研究を継続して来たものである。なお、プレコンという名は、鉄筋とコンクリートを材料とする工場生産部品を、接点をピン接合とし、筋違を用いてトラス式に組み立てて得られる構造」と記述しています。

昨年度、明延まるごと博物館拠点整備等計画を策定する過程で、プレコン建築の協和会館の建物調査を行いました。この調査に参加した河辺操建築事務所の河辺所長は「協和会館は阪神淡路大震災の揺れにも損傷を受けず、長年の風雪にも耐えて保存状態が良いままに残っている。全国的にも類がないと思われる貴重な近代化遺産であり(補強を

行って)後世に残す価値のある建物である。」と報告書に記されました。

当法人では、今年度、所有者の了解を得て、協和会館と北星プレコン社宅の構造工学的な視点から西澤先生に調査を依頼することになりました。

5月3日、所有者である市の特別の許可を得て、西澤先生らに北星プレコン社宅などを見ていただきました。今回は、主に外観中心に調査をしました。西澤先生は、「戦後、鉾山が日本の復興に果たした役割は、大変大きなものがあり、その当時の産業遺産施設や人々の営みを伝える様々な家屋が群として残されていることに感激しました。」と驚かれました。次回は8月頃に学生たちも参加して、調査をする予定です。



明延でのプレコン社宅は、昭和28年に北星地区に8棟が建てられました。(写真右)これが明延で最初に作られたプレコン社宅であり、日本最古級のプレコン建築です。

その後、鉾山の繁栄と共に、妙見地区、観音町地区、坂ノ谷地区に次々と建築されました。昭和30年には明延病院、昭和32年には協和会館が建設され、明延は全国でも有数のプレコン都市になりました。プレコン社宅は、鉾山の合理化、閉山で次々と取り壊され、現在では、北星地区と坂ノ谷地区に一部残すのみとなっています。なお、北星プレコン社宅は、立ち入り禁止(内部非公開)となっています。

令和4年度 通常総会を開催

令和4年5月19日、あけのべ自然学校においてNPO法人一円電車あけのべの通常総会が開催され、令和3年度の事業報告、決算報告並びに令和4年度の事業計画、活動予算に関することが審議され、すべて提案どおり承認されました。

令和3年度事業報告

■活動の概要

令和3年度は、兵庫県但馬県民局や養父市関係課、明延区、アドバイザー等のご支援、ご協力により「明延まるごと博物館拠点等整備計画」を策定しました。

この計画は、かつての明延鉱山の娯楽・文化施設であった協和会館を明延鉱山の歴史資料館として、活用を提案する計画です。

実現に向けては、多くの課題がありますが、今後も行政、鉱山管理会社等にご理解頂きながら、明延鉱山が日本の近代化に果たした役割を後世に伝えていきたいと思います。

■産業遺産の調査・研究事業

- ①明延まるごと博物館構想推進事業
但馬県民局地域創生推進事業補助金を活用して、協和会館の調査及び活用検討を行い、同施設の活用計画案などをまとめた「明延まるごと博物館拠点等整備計画」を策定しました。
- ②明延鉱山資料の収集・整理事業

明延近代鉱山研究所と連携し、鉱山資料の収集・資料のデジタル化などを行いました。

■産業遺産の保存・活用事業

- ①あけのべ一円電車ひろば運営支援事業
一円電車「くろがね号」のレプリカ製作等について、鉄道アドバイザーの岡本憲之氏（栃木県日光市）を招き、情報提供やアドバイスを受けました。
- ②一円電車及び旧北星住宅の保存・公開事業
北星住宅の内部清掃や周辺の草刈り作業及び一円電車及びバッテリー機関車の清掃・点検、公開を実施しました。
- ③広報活動事業
会報「6136」の発行（2回）と当法人の活動や明延

令和3年度 決算書

科	目	金額（円）
経常収益	受取会費	517,000
	受取寄付金	243,000
	受取補助金	1,040,000
	事業収益	4,320
	その他収益	3,602
	計	1,807,922
経常費用	産業遺産の調査・研究事業	1,010,440
	産業遺産の保全・活用事業	182,517
	地域活性化事業	257,240
	管理費	168,422
計	1,618,619	
税引前当期正味財産増減額		189,303
法人税、住民税及び事業税		72,000
当期正味財産増減額		117,303
前期繰越正味財産額		3,084,015
次期繰越正味財産額		3,201,318

鉱山の歴史等を紹介するリーフレットを発行しました。

④物販事業

一円電車体験乗車会や日曜坑道見学会時に一円電車記念切手の販売・PR活動を実施しました。

■地域活性化事業

- ①明延ご機嫌暮らし支援活動（明延区と協働事業）
明延区の持続可能な集落づくりのため、明延区の各家庭を月2回訪問し、高齢者のご様子伺いとゴミの分別収集作業を実施しました。

- ②「オモイデ」活用事業
地域活動拠点ハウス「オモイデ」地域交流の場や鉱山

山の歴史などを調査・研究する場、当法人の事務所として活用しました。

③その他の活動

日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」の連携事業として、高校生による日本遺産魅力発見ワークショップの協力や「トンネルサミット」の参加など、他団体と連携事業にも取り組みました。
※一円電車まつりは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、2年連続で中止しました。

○会員の状況

会員数55名（運営委員会18名、一般会員37名）



計画案の概要を説明する小林明延区長（令和4年3月、大屋市民センター）

令和4年度 事業計画

■基本方針

令和4年度は、昨年度策定した「明延まるごと博物館拠点整備等計画」を着実に進めるため、明延鉱山の歴史的建造物の価値を再認識する取り組みや明延地域の新たな魅力を発信することを基本方針とし、次の3点を重点活動として取り組めます。

- ①明延鉱山の歴史的建造物の調査事業
 - ②「映える・明延川作戦」
 - ③法人設立10周年記念事業の実施です。
- 引き続き、皆様のご支援、ご協力をお願いします。
- 明延鉱山の産業遺産の調査・研究事業
- ①明延鉱山の歴史的建造物の調査事業
- 明延鉱山の歴史的建造物である協和会館やプレコン社宅等の保全・活用のため、施設所有者等の協力を得て、関西大学名誉教授の西澤英和先生に建物調査を依頼します。

■明延鉱山の産業遺産の保存・活用事業

- ①一円電車「くろがね号」体験乗車会の運営支援事業
- 一円電車ひろばで開催される一円電車「くろがね号」の体験乗車会の運営支援を行います。
- ②一円電車及び旧北星社宅の保存・公開事業
- 一円電車及び旧北星社宅等の適切な保存と公開のため、車両、建物等の清掃、周辺の草刈などの保全活動等を実施します。
- ③広報活動事業
- 明延鉱山の産業遺産の魅力や法人の活動の様子を紹介する会報「6136」を年2回、発行します。また、「明延鉱山」のホームページにて、活動を随時紹介します。

■地域活性化事業

- ①「映える・明延川作戦」
- 明延川沿いの「インスタ映え」するポイントにアート作品等を展示し、協力者に写真共有SNS「インスタグラム」等で、写真を公開し、四季を通じて、明延の美しい風景をPRします。
- ②法人設立10周年記念事業
- 法人設立10周年記念事業として、明延の新しい魅力を発信する「新発見！明延フォトブック」（仮称）を秋に発行します。
- ③明延「ご機嫌暮らし」支援事業（明延区との協働事業）
- 明延地区の高齢者の見守りと安否確認、ゴミの分別収集を明延区と協働で実施します。
- ④「オモイデ」活用事業
- 地域交流ハウス「オモイデ」を地域交流や明延鉱山の資料研究の場、当法人の事務所として活用します。このほか、「第14回あけのべ一円電車まつり」の開催や大学等との連携事業などを実施します。

令和4年度 活動予算書

科	目	金額（円）
経常収益	受取会費	517,000
	受取寄付金	210,000
	受取補助金	40,000
	事業収益	20,000
	その他収益	1,000
	計	788,000
経常費用	産業遺産の調査・研究事業	148,000
	産業遺産の保全・活用事業	90,000
	地域活性化事業	447,000
	管理費	103,000
	計	788,000
税引前当期正味財産増減額		0
法人税、住民税及び事業税		72,000
当期正味財産増減額		△ 72,000
前期繰越正味財産額		3,271,029
次期繰越正味財産額		3,199,029

梅雨の晴れ間に 北星社宅の草刈り作業

6月15日、恒例となっている旧北星社宅周辺の草刈り作業を実施しました。

当日は、当法人の草刈り名人（？）の2人が手分けをして、社宅の周辺と市道沿いを約2時間かけて作業しました。今年は、大雪で遅くまで雪が残ったせいかわかりませんが、例年よりスキの草丈が短く、作業もはかどりました。これから夏シーズを迎え、明延を訪れる方々を気持ちよく迎えることができます。



NPO役員による草刈り作業（北星社宅）

寄稿

今回は、一円電車運
転手の山野吉史さん
（福崎町在住）に寄
稿をお願いしました。

「一円で乗れる電車があ
るんやで。」

休日は朝から近くの駅で
列車の写真を撮ってるよう
な子どもだった私に、国鉄
マンだった父がそう教えて
くれました。

人数を教えやすいように
切符は一円らしいと。一円
で乗れる列車とはどんな列
車なのか、とても興味が沸
きました。しかし、どこか
北の方と言うくらいしか情
報が無く、山陰側に馴染み
のない私には京丹後の方に
ある温泉のケーブルカーか
何かかと思うくらいで、場
所も分からず、行く手段も
ありませんでした。

そして、就職で関東へ。
関東でも鉄道や遺構を車や
バイクで巡っていたのです
が、一円で乗れる電車の話
はすっかり忘れてしまっ
ました。たまの帰省でのド
ライブ中に操業を停止した
神子畑選鉱所を通りかかっ
た時もありました。山肌に
沿って作られたその巨大な
施設は鉱山施設跡である事

は分かったのですが、当時
はネット検索は無く、その
施設の存在は知ってても何
の施設かを知っている知人
はおらず、生野銀山の関連
施設だろうと言う話になり
ました。生野銀山は観光地
としても有名でしたが、明

延鉱山を知ってる人はいな
かったのです。その施設の
上に一円電車が走っていた
とは思いませんでした。
帰省頻度も少なくなつた
ある日、地方新聞で一円電
車復活の募金活動の記事を
見つけます。「一円で乗れ
る電車」子どもの頃に聞い
た電車に違いありません。

既に父は他界してしまいが
子どもの頃の思いが蘇りま
した。
明延鉱山の「一円電車を調
べると車両が展示されてい
るとあります。それから明
延鉱山跡は、鉄道好きな息
子との定番ドライブコース
となつたのでした。

そして今度は「あけのべ
まつり」で一円電車を走ら
せるとの記事。これも帰省
時にしか見ない地方紙で偶
然目にした一円電車イベン
トです。坑道見学もあり、
オリジナルのくろがね号と
観光化されていない坑道見
学に感動でした。以後、あ

けのべまつりは毎回、東京
から帰省して観に行くよう
になりました。

一円電車の常設運行を始
めた頃、私にも転機が訪れ
ます。早期退職制度を使い
兵庫県へUターンする事に
しました。Uターン後に新
しい仕事も決まり、何処か
鉄道遺産を維持する手伝い
でも出来ればと考えて保存
会を選んでいた所にネット
ニュースに一円電車のボラ
ンティア運転士募集が。即
決で申込み、ボランティア
運転士となりました。

一円電車に就職できれば、
映画「RAILWAYS 49歳で電
車の運転士になった男の物
語」をリアルになれたので
すが、そこはちよつと残念
でした。ふりかえると、一
円電車に関する情報はいつ
も絶妙なタイミングで表れ
てきました。

帰省時に偶然開いた地方
紙や、たまたま

開いたニュース
サイトの記事。
鉱山や遺構、鉄
道に興味を持つ
て全国を巡って
いたので、いつ
かは明延鉱山へ
たどり着いたと
は思いますが、



一円電車を運転する山野さん
（あけのべ一円電車ひろば）

行動を起こしやすいつ時に一
円電車との再開や運転士に
なれた幸運は何か強い縁を
感じています。また、母校
である明石高専の生徒が一
円電車まつりに参加するよ
うになったというのも凄
偶然ですね。

一円電車の定期運行で、
明延鉱山と一円電車はかな
り知られるようになりまし
た。くろがね号以外の一円
電車も形が特徴的で魅力が
あるので、今後はもっと積
極的に紹介できればと思
います。一円電車以外にも坑
道や街並みも小さな谷間に
できた鉱山町の魅力があり
ますので、このまま歴史に
埋もれてしまわないよう町
おこしにも協力していきたい
と思います。また、他の
鉄道遺産とも協力して、共
に歴史を守っていければ良
いと思います。

編集後記

コロナが流行り
だしてからもう3
年。人が集まるこ
とを避け、マスクをし、消
毒をし、並ぶ時はスパー
スを空けて：これらの行動が
一般的になってきている。
人間の対応力の素晴らしさ
には驚かされる。

ここ但馬では、都市部に比
べて少ないものの感染者は
出ている。ただ、いつまで
もコロナに怯え、手をこま
ねるのはどうなのか。一部
には、コロナを理由に人と
の交わりを避け、伝承的な
行事も避けるようになって
いる。それも妙な話である。
明延もこの2年、一円電車
まつりを中止してきたが、
今年の秋には実施する計画
を立てている。様々な配慮
は必要となるが、活動を実
行していく事が大切ではな
いかと考える。

「WITH コロナ」がどこまで
可能なのか。これからも備
えあれば患いなしが重要に
なってくるだろう。私の編
集後記は、そろそろ「コロ
ナばなれ」したい
ものである。
(智子)

